

問1. カテーテルアブレーションの良い適応はどれか？2つ選べ。

- ①85歳の無症候性, 発症時期不明の永続性心房細動
- ②左房径50mmの無症候性, 3年以上の持続性心房細動
- ③頻発するが自覚症状が乏しい発作性心房細動
- ④拡張型心筋症(LVEF 30%), 心不全合併, 1年以内の持続性心房細動
- ⑤薬剤抵抗性の動悸が頻発する発作性心房細動

AFに対するカテーテルアブレーションの推奨

表 50 心房細動に対するカテーテルアブレーションの推奨とエビデンスレベル

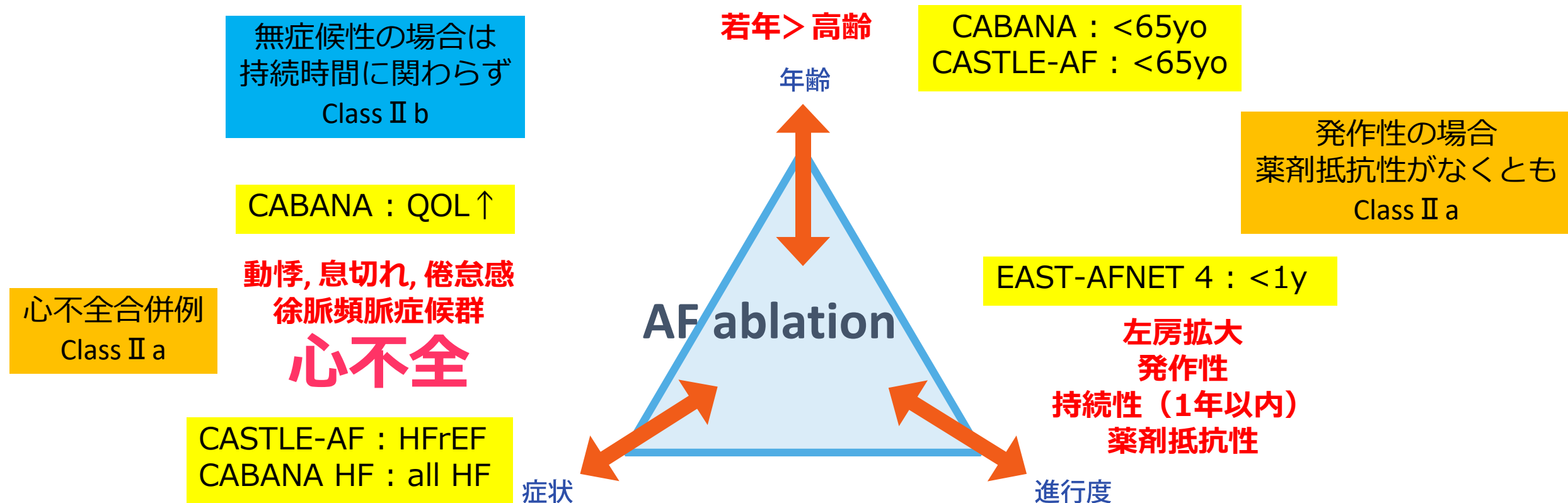
	推奨 クラス	エビデンス レベル	Minds 推奨 グレード	Minds エビデンス 分類					
薬物治療抵抗性*の症候性発作性心房細動	I	A	A	I	症候性長期持続性心房細動 (薬剤治療抵抗性および第1選択治療として)	IIb	B	B	II
症候性発作性心房細動 (第1選択治療として)	IIa	B	B	I	再発性無症候性発作性心房細動	IIb	C	C1	III
心不全(左室機能低下)を合併した心房細動(正常例と同じ 適応レベルを適用する)	IIa	B	B	I	無症候性持続性心房細動	IIb	C	C1	III
徐脈頻脈症候群を伴う発作性心房細動	IIa	B	B	III	左房内血栓が疑われる心房細動	III	A	D	V
症候性持続性心房細動 (薬剤治療抵抗性および第1選択治療として)	IIa	B	B	II	抗凝固療法が禁忌の心房細動	III	A	D	V

◎ 有症候性
 ◎ 薬物治療抵抗性
 ◎ 再発性

○ 心不全・左室機能低下
 ○ 徐脈頻脈症候群
 ○ 持続性(1年以内)

△ 無症状
 △ 長期持続性
 × 血栓, 抗凝固療法禁忌

2018年 JCS/JHRS 不整脈薬物治療ガイドライン
AFに対するCAの適応を考慮する3要素



心房細動に対するカテーテルアブレーションの適応

解答1. カテーテルアブレーションの良い適応はどれか？2つ選べ。

- ① 85歳の無症候性, 発症時期不明の永続性心房細動 → × : 推奨なし
- ② 左房径50mmの無症候性, 3年以上の持続性心房細動 → △ : Class II b
- ③ 頻発するが自覚症状が乏しい発作性心房細動 → △ : Class II b
- ④ 拡張型心筋症(LVEF 30%), 心不全合併, 1年以内の持続性心房細動 → ○ : Class II a
- ⑤ 薬剤抵抗性の動悸が頻発する発作性心房細動 → ○ : Class I